

蝶の冬ごもり



寒さも本格的になってきました。春夏にかけて盛んに飛んでいた蝶たちですが今はほとんど見かけませんね。いったいどこに消えてしまったのでしょうか？どこかで寒さに震えている？

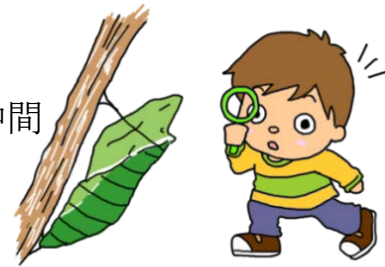
ご存知のように、蝶は卵→幼虫(芋虫)→^{さなぎ}蛹→成虫と姿を変えながら成長します。羽根を持って飛び回るのはこのうち成虫のみです。蝶の冬の過し方はさまざまです。日本に居る蝶の仲間の冬越しは大ざっぱに下記のように分類できます(いくつかの例外はあります)。

卵 : 一部のシジミチョウの仲間

幼虫 : タテハチョウの仲間、シジミチョウの仲間、セセリチョウの仲間

蛹 : アゲハチョウの仲間、シロチョウの仲間

成虫 : 一部シジミチョウの仲間、一部のタテハチョウの仲間



幼虫か蛹で越冬する種類が多数派です。成虫で越冬する例は少なく、また、卵で越冬といっても、実際は中で幼虫の形になっていながら春になるまで卵の殻の中でじっとしているのです。

越冬中の幼虫・蛹は落ち葉の下や軒下など雨や雪を凌げる場所、また、成虫は枯葉の隙間や常緑樹の葉陰などに隠れています。

春になると、どの種類も一斉に動き出す訳ではありません。幼虫の場合は、おのこの食草・食樹の芽吹く時期に合わせて目覚めるのです。(蝶は種類ごとに決まった植物しか食べません。)また、冬越しした成虫は春に卵を産むこととなります。

みずき野近辺での代表例(蝶名に*が付いているものは、下で詳しく説明しています)

卵 : ミドリシジミ、ウラゴマダラシジミ*

幼虫 : ゴマダラチョウ*、ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミ

蛹 : アゲハチョウ、アオスジアゲハ*、モンシロチョウ、ツマキチョウ

成虫 : ウラギンシジミ*、キタテハ、ヒメアカタテハ、ムラサキシジミ

(暖かい日に時々日向ぼっこで飛び出してきます)

■ウラゴマダラシジミ(成虫は6月上旬)

卵で越冬します。守谷の雑木林に多い低木イボタノキの枝に卵は産み付けられます。まるで空飛ぶ円盤のような不思議な形をしています。色も含めイボタノキの芽に擬態したものだと思われま



卵-円盤の直径は1mm程度



成虫



幼虫-枯葉の色に擬態している



成虫-羽化した直後

■ゴマダラチョウ（成虫は6月～9月）
幼虫で越冬します。2本のツノを持ったかわいらしい姿をしています。食樹のエノキの葉が緑の時期は幼虫の体も緑色ですが、秋になり葉が落ちる頃には灰褐色に変化して、根元に降りて落ち葉の裏などに隠れます。見事な葉隠れの術です。体長は約20mm。ちなみに、みずき野周辺には見られませんが、日本の国蝶オオムラサキの幼虫もこれとそっくりな姿と生態をしています。

■アオスジアゲハ（成虫は5～10月）

蛹で越冬します。夏・秋の蛹と色形の違いはありません。春になって羽化してくる成虫は、夏に羽化するものに較べて小型で羽根の水色の模様の割合が多い個体になります。蛹になる場所は食樹(クス)の葉裏のこともあります。幹から降りて何メートルも這い回って、軒下などの場合も多いです。せっかく蛹の形と模様を見事にクスの葉に似せているのに、台無しではないかと思ってしまう。



蛹



クスの葉上で休む成虫

■ウラギンシジミ

成虫で越冬します。羽根の裏が銀白色で飛んでいる時はとても目立つ蝶です。毎年、自宅の庭のユズの木の葉陰に身を隠してじっとしているところを見かけます。銀白色なので「目立っているのですが、」とツッコミを入れたくなるほどです。



(文と写真 宮原 吉郎)